

# OECD東北スクールの生徒の教育効果

- ・粘り強く議論する力や遂行力の向上
- ・地域や日本への思いの深まり
- ・建設的批判的思考力の向上
- ・ICT技術の飛躍的向上
- ・インターローカルな関係づくり  
＝相互にエンパワーされる関係へ

自分たちの街が津波で流されて行くのを見て、現実なのか幻覚なのかわからなかった。

2011  
3.11

震災がおきて、自分たちの町が津波で流されて行くのを見て、現実なのか幻覚なのかわからなかった。

卒業式があり転校していく友だちや先生との別れ。でも中学1年としてがんばろうと思った。

卒業式があり、転校してしまっている友達や先生とも別れることになってかなり悲しかった。でも来年度から中学校一年生として新たなスタートをきることに決めた。がんばろうと思った。

中学校生活が始まり、知らない人たちと一緒にクラスで勉強して初めは少し戸惑ったけど、生活していくうちに馴染むようになったので学校が楽しくなっていた。

中学校生活が始まり、少し戸惑ったけど、なじめるようになった学校が楽しくなった。

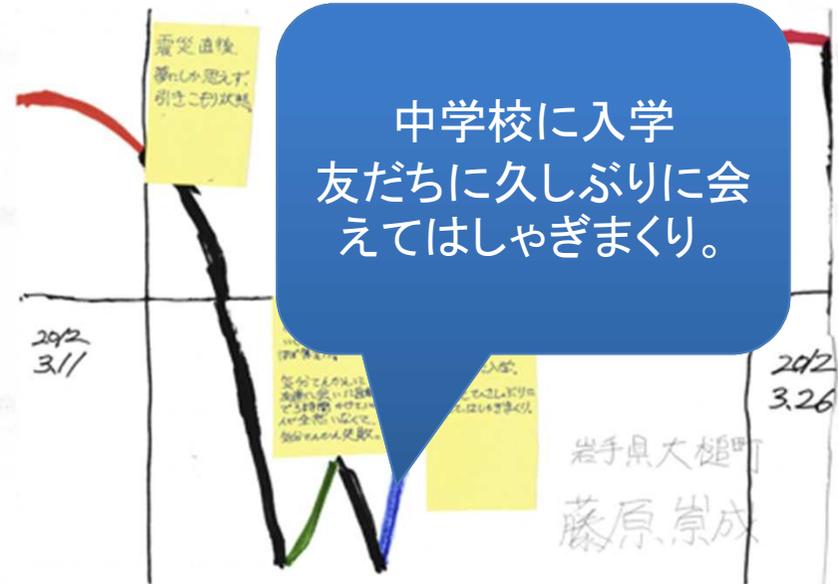
2012  
3.26

文化祭と体育祭があった。体育祭は応援活動としてとても楽しかった。その後も何も問題なく生活して、たまたま卒業式が近づいていた。

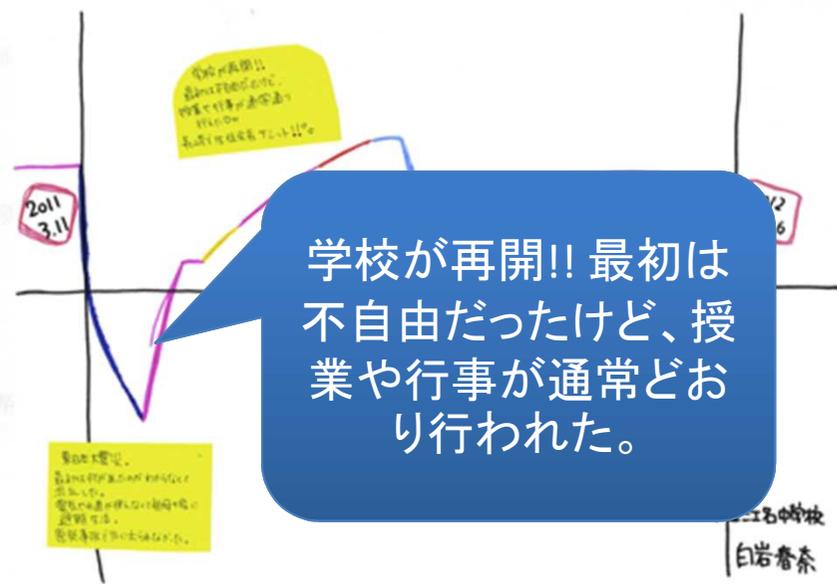
中学校の卒業式があり、今年度も終わるんだなという気持ちの反面、来年度から新2年生という状況があまり好きじゃなかった。でも、東北スクールを通して、いろいろな人と交流を深めたいと思った。

大田町立  
大槌中学校

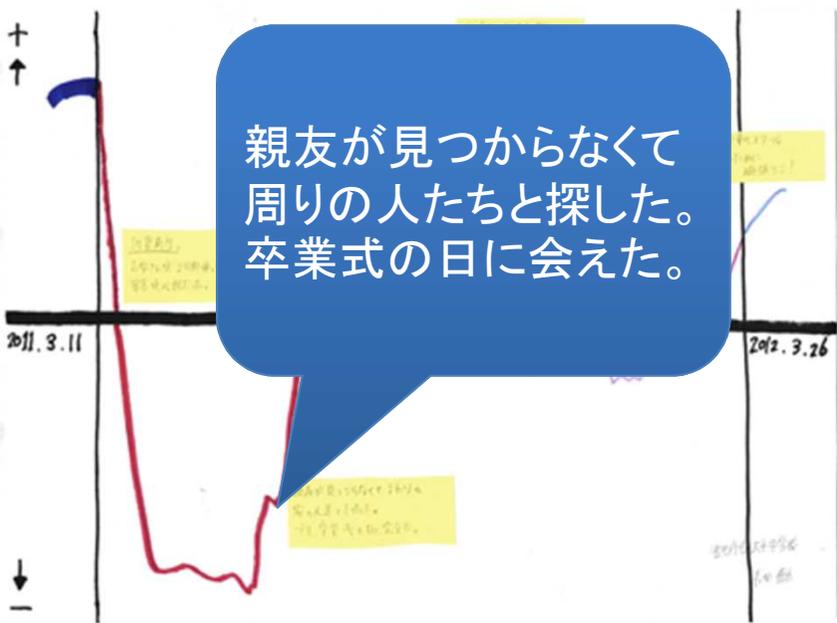
兼澤 颯



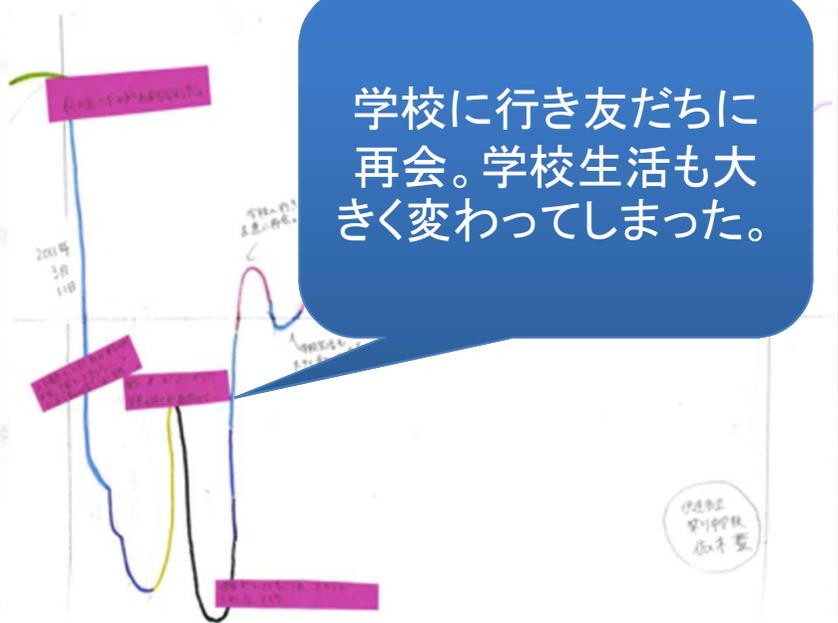
中学校に入学  
友だちに久しぶりに会  
えてはしゃぎまくり。



学校が再開!! 最初は  
不自由だったけど、授  
業や行事が通常どお  
り行われた。



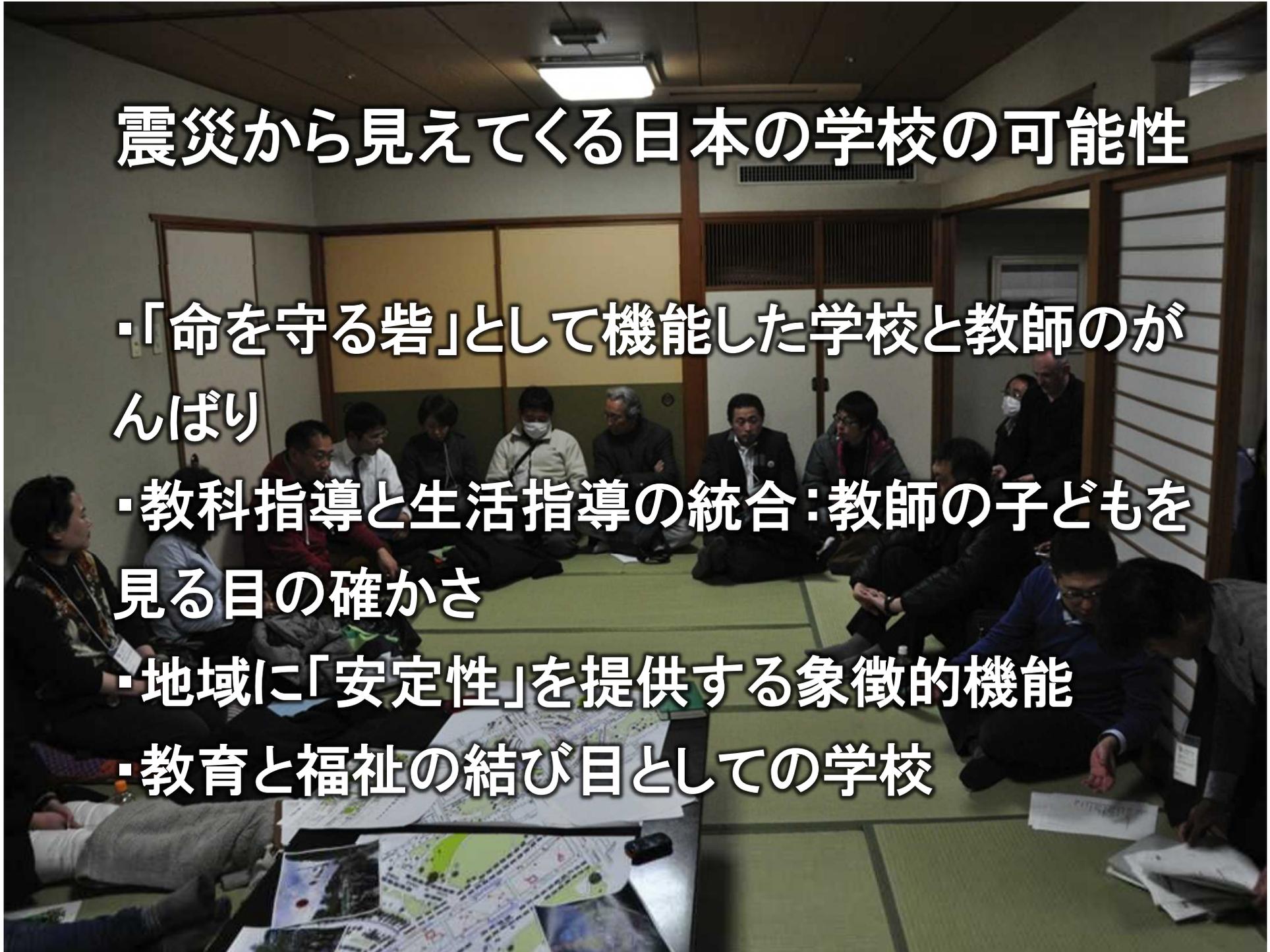
親友が見つからなくて  
周りの人たちと探した。  
卒業式の日会えた。



学校に行き友だちに  
再会。学校生活も大  
きく変わってしまった。

# 震災から見えてくる日本の学校の可能性

- ・「命を守る砦」として機能した学校と教師のがんばり
- ・教科指導と生活指導の統合：教師の子どもを見る目の確かさ
- ・地域に「安定性」を提供する象徴的機能
- ・教育と福祉の結び目としての学校



# 未来創造型教育へ

震災からの  
復興

東北の  
活性化

国益の  
追求

未来創造型教育  
大人-子ども協働  
モデル



被災地内の  
異なる被災体験を  
持つ生徒が  
出会う

異学年が  
一緒に協働

生徒レベルで  
海外を身近に

異なる性別の  
バランス

生徒と教師が  
対等に協働

多様な  
コミュニケーションの  
ツール使用

被災地(東北)と  
非被災地(東北以外)  
が交わる

異なる  
省庁・分野  
の取り組み

産官学連携

政策・研究・現場  
が交差

教育におけるイノベーションの創造

# イノバティブ・ラーニング・ラボラトリー (ILLab／教育改革研究所)の設置

- ・子ども支援プログラム、OECD東北スクール、  
双葉八町村教育復興支援、等
- ・長期にわたる復興支援の必要性和大学としての責任
- ・地域・東北・日本の長期的な展望

イノバティブ・ラーニング・ラボラトリー  
(ICT・国際連携・復興教育・プロジェクト学習・教員養成研修 教育改革の実験室へ)

- ・震災復興カリキュラムの創造
- ・21世紀型人材育成モデルの実践と公教育への還元
- ・教育改革モデルとして国内外へ発信